

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0770320321		
法人名	有限会社 花束		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	〒963-0107 福島県郡山市安積4丁目334番の1 (電話) 024-937-2425		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年8月6日	評価確定日	平成20年10月7日

【情報提供票より】(平成20年7月11日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14 人, 非常勤 人, 常勤換算 14 人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り	
	1階建ての	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費	水道光熱費他(月額) 4-6,9-10月 700円 7-8,11-3月 800円 退居時クリーニング代20,000円
敷金	有( ) 円 ● 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 ● 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

## (4) 利用者の概要

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.2 歳	最低	60 歳	最高	94 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡沼内科往診クリニック	まつかわ歯科医院
---------	-------------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

アーチ型の門を入ると、中庭のウッドデッキを挟んで両側に鉄骨平屋建ての2棟の建物が建てられている。ウッドデッキには季節の花が飾られテーブルとベンチがあって利用者の交流の場としても活用されている。広い調理場は、2箇所にシンクがあり、効率的に調理ができるよう配慮されてある。利用者は快適な共有空間の中で、好きなことを自由を楽しんでおり、職員も一緒に遊びに参加しながら寛いだ場作りを演出している。運営者も管理者と共に、サービスの質の向上を図るため、ケアプランに基づいた効率的・効果的な介護記録の検討を行なうなど前向きに取り組んでおり、一体的な管理運営が行なわれている。外部評価による改善点についても運営推進会議に報告し、評価の意義を職員全員で理解し、改善に努めている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 改善事項の具体的な理念の明示については、BS(ブレインストーミング)法により、全員で課題を出し話し合いながら、地域密着型サービスの理念を作成した。介護計画については、職員全員で共有している。重度化等に対する対応等は、今後具体的な指針を作成し、職員で指針に沿った対応を行うよう検討している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については、全員参加で行ない、ユニットリーダーが取りまとめ、取り組みの事実や今後一層取り組んでいきたい内容を明確にしている。また、全体的には法人と管理者とが総括し、質の向上に反映させている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議は2ヶ月に1回定期的で開催している。ただ、会議の運営が、事業所主体となっているため、会議録から委員から出された意見がほとんど確認できないように見受けられる。有意義な会議となるよう運営推進会議の意義や役割、運営について検討している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 定期的に利用者の家族に対し近況報告など記載し行事の写真等を同封し報告している。また、本人の一言を書くスペースを設けるよう検討している。受診状況や医療に関する内容は電話で適切に伝えている。また、収支状況明細書のコピーと領収書を送付している。家族等の面会者も多く、意見・要望等を聞き、運営に反映させるよう努めている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会にも加入しており、地域の住民との日常的な挨拶や交流も円滑に行なわれている。避難訓練についても運営推進会議を通じ参加協力をお願いしている。ボランティアの受入れについても積極的である。
重点項目④	

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の評価において、見直しの必要性を指摘されたことを踏まえて理念を作成しており、職員全員で意見や思いを盛り込み、わかりやすい言葉で表現している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念作成にあたって、職員全員が参画しているので、十分な理解のもとに日常のサービスに生かしている。また、玄関先や共有空間の見やすいところに掲示されている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、清掃活動、夏祭りや敬老会など地域の行事に参加している。また、日常的に季節の野菜や花の差し入れ、子供たちの気軽な訪問があり、近隣の住民からの理解と協力が得られている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については十分に理解している。自己評価の作成にあたっては、職員全員で当たり、各ユニットリーダーがまとめ、サービスの改善に向けて学習したり、支援している。また、評価当日には調査員への質問や相談を事前に準備しており、事業所の運営・管理に対する改善への意欲が感じられる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、定期的開催され、情報交換や外部評価による指摘項目等の説明もなされている。会議記録の整理については明瞭でない点もあり検討しているところである。</p>		<p>事業所は委員の求めに応じて利用者に提供しているサービス内容等を明らかにしたり、地域との連携を緊密にするために委員の構成員に協力を求めたりし、双方向による会議が望ましい。</p>
6	9				
<p><b>4. 理念を実践するための体制</b></p>					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>利用者それぞれの近況を担当者が手書きで伝えたり、現金出納帳のコピーとレシートを添えて家族へ送っている。また、季節ごとのホーム便りには行事の予告や催事の折の写真を載せている。利用料の納入を現金持参で行う家族もあり、日常的に家族の訪問回数は多い。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議の議事録には家族からの意見や要望が見受けられる。また、面会時には、家族が意見や要望を話しやすい雰囲気作りに心がけている。職員のネームプレート装着は家族からの意見を早速取り入れて実行したものである。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動時には後任者をフォローし、全員で利用者への影響を最小限に抑えるように努力している。現在までのところ利用者の介護職員に対する関係はスムーズであり、日常生活における混乱などは生じていない。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人・事業所としての研修計画はないが、職員が休日を利用して研修に参加する場合でも参加費・交通費を負担している。また、受講者には研修報告書を提出させている。		職員の質や定着率を高める上でも、研修は重要な要素であることから、職員からの受講希望のみでなく、新人研修からスキルアップ、ステップアップ研修などを年間計画として作成し、計画的に受講させることを望みたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県認知症グループホーム連絡協議会に加入しており、研修会では意見交換を行ったりしているが、他法人にも呼びかけを行い、研修も含めた交流を検討している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、さまざまな人生経験を持つ高齢者から学ぶことの多いことを実感し、一人ひとりへの尊敬の念を忘れず対応しているのが自然に伝わっていて、利用者は落ち着いてゆったりした生活を送っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方をアセスメントシートにより把握し、日常生活から思いや意向を感じ取り、また、家族からの情報を取り入れながら、意向の把握に努めている。今後、センター方式の一部活用を検討し、支援に反映させることとしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の全体像を把握し、毎月利用者や家族の希望を踏まえてカンファレンスを行い職員全員で話し合い、個別・具体的な計画作成に努めている。		介護計画の援助内容項目が多く、計画と介護記録とが連動していないケースも見られる。ケアの優先順位を考え、適切なケアサービスに絞った内容を記載し、介護計画に即した介護記録の記載方法を検討されてはどうかと思われる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間内に見直しを行なっている。また、利用者の状態変化に対しては、家族や関係者と話し合い、気づきや意見を反映させ、現状に即した適時の見直しを行なっている。		介護計画に即した実施記録を行なうことにより、効果や評価が容易に明らかになり、適切なモニタリングがなされると思われる。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を密にし、家族との協力により通院介助を行ない、適切な受診支援を行っている。また、協力医療機関による往診体制も出来ており、状況を報告し相談を行なうなど連携を深めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約看護師が日常的な健康管理や利用者の状態悪化時の主治医との連絡・調整を行なうなどしている。終末期対応については、「看取りに関する考え方」は整備してあるが、重度化し、看取りの必要が生じた場合等における具体的な対応指針は作成されていない。また、入居時の利用者等の同意がない。	○	医療連携体制加算の事業所であるため、看取り介護の体制や具体的な支援内容等を整備した、重度化・看取りに関する対応指針を作成し、利用者・家族の同意を得ることが必要である。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを尊重し誇りを損ねないよう言葉遣いにも十分留意したり、運営規程に基づき、個人情報保護の徹底や、写真撮影等個人情報の具体的な扱いに留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がゆったりと自由に過ごせるよう、身体や気分配慮し、買い物や散歩、趣味活動など希望に添って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューも利用者と相談し決めたり、食材を購入したり、調理の下ごしらえ、後片付けなど利用者の協力を得ながら行なっている。職員も利用者と一緒に食事を楽しみながら、さり気なく介助している。全員で時々外食を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望に合わせて行なっている。季節感を取り入れ、菖蒲湯やゆず湯による入浴を取り入れるなど、いろいろと配慮している。温泉へ出かけることもある。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	料理や掃除、畑仕事、花の手入れ、きり絵など利用者の得意分野や好みを把握し、場作りをしながら、利用者の意欲を引出すよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	買い物や散歩等出来るだけ外出するよう努めている。事業所全体で恒例的にお花見ドライブや誕生会を回転寿司で行なうなど気分転換を図るなど外出の機会を工夫している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員のさり気ない見守りにより、落ち着いて過ごしており、日中は鍵はかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管理者が防火管理者となり、定期的に避難訓練や避難訓練シミュレーションを基に訓練を行なっている。運営推進会議を通じ、地域の人たちの協力と理解を得るようお願いしている。食糧や水等の備蓄もある。消防署の協力による実践的な避難訓練を検討している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活アセスメントケース記録表により食事や水分の摂取量を把握し、職員間で情報を共有し、利用者の状態に応じて支援している。メニュー表を確認し、バランスを工夫しながら栄養管理を行なっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の大部分を過ごす居間は両ユニットと繋がっている中庭から自然光が入るようになっている。明るく広い共有スペースには、紙細工の花や季節の飾り物がさりげなく置かれているが、職員の目が行き届くように配置されている。浴室、トイレなども清潔に保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	シンプルに暮らす人、飾り物で生活を楽しむ人それぞれに好みに沿った居室になっている。		

※  は、重点項目。

### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホームひまわり

記入担当者名 中山 真由美

#### 評価結果に対する事業所の意見

特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。